

1. 略歴

1997年3月	東京大学文学部行動文化学科社会学専修課程卒業
1997年4月	東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程入学
1999年3月	同 人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程修了
2002年3月	同 博士課程単位取得退学
2004年4月	札幌学院大学社会情報学部講師（～2006年3月）
2005年5月	博士（社会学）学位取得（東京大学）
2006年4月	札幌学院大学社会情報学部助教授
2007年4月	信州大学人文学部准教授
2012年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

コミュニティの社会学、ハウジングの社会学、社会調査史

b 研究課題

- (1) 建造環境と社会構造の関係についての理論的・経験的研究
- (2) 米国、英国および日本における社会調査史

c 概要と自己評価

(1)経験的調査を通じて選別主義的な住宅政策を支えてきた社会意識の分析を進めるとともに、住宅政策を普遍主義的な社会政策として再構成するための条件を考察した。また、歴史的制度論にもとづきイギリス福祉国家の変容と住宅市場危機の淵源を探ったS・ローの *The Housing Debate* (2011年) の翻訳書を刊行した。(2)米国の社会学的ハウジング研究において、「政治経済学」と「社会心理学」の系譜が「エスノグラフィ」を介して接続され、「いかにして実効的環境を記述・分析するか」という理論的・方法的な基本問題が設定されるに至る過程を追跡した。

d 主要業績

(1) 翻訳

祐成保志 (訳)、『イギリスはいかにして持ち家社会となったか』ミネルヴァ書房、2017.9 (Lowe, S., 2011, *The Housing Debate*, Policy Press. の全訳)

(2) 論文

祐成保志、「住宅がもたらす分断をこえて」、井手英策・松沢裕作編『分断社会・日本』岩波書店、33-45頁、2016.6
SUKENARI, Yasushi, *Housing Estates as Experimental Fields of Social Research*, *Development and Society*, Institute for Social Development and Policy Research, Seoul National University, 45(1):69-87, 2016

祐成保志、「住まいが『受け継がれる』ための条件とは」、内田青蔵他編『受け継がれる住まい』柏書房、69-77頁、2016.9

祐成保志、「ハウジングとホーム：住宅政策は何に照準を合わせるべきか」、日本住宅会議編『深化する居住の危機：住宅白書2014-2016』ドメス出版、21-28頁、2016.12

祐成保志、「住宅研究と社会学の協働：『予言の自己成就』をめぐって」中島明子編『HOUSERS：住宅問題と向き合う人々』萌文社、43-50頁、2017.3

祐成保志、「住宅とコミュニティの関係を編み直す」宮本太郎編『転び落ちない社会：困窮と孤立をふせぐ制度戦略』勁草書房、97-125頁、2017.10

祐成保志、「住生活の再建と仮設住宅」『都市住宅学』都市住宅学会、98、38-43頁、2017.8

祐成保志、「消費・生産・参加：『住まう』ことを支えるとは」『月刊福祉』全国社会福祉協議会、100(8)、40-45頁、2017.8

(3) 学会発表

国内、祐成保志、「現代都市における住宅問題」、日本社会学会第90回大会、東京大学、2017.11.4

国内、祐成保志、「団地はどのように新しかったのか?」、人間・環境学会第114回研究会「団地が積み重ねてきた経験」、法政大学、2018.2.17

国際、Sukenari Yasushi、「Aging and the concept of fair housing in the Japanese context」、From Room to Region: Age-Friendly Environmental Design and Planning in the Western Asia-Pacific、九州大学、2018.3.13

(4) その他

祐成保志、「縮退時代の住まいのあり方」、『新建築別冊 集合住宅の新しい文法』新建築社、120-121 頁、2016.8

祐成保志、「コミュニティ・ワークとしての居住支援」、『すまいろん』住総研、100、4-5 頁、2017.2

祐成保志、「私が経験した社会情報学」『社会情報』札幌学院大学総合研究所、25(1・2)、249-253 頁、2017.2

祐成保志、「訳者解説」、祐成保志訳『イギリスはいかにして持ち家社会となったか』（前掲）、277-287 頁、2017.9

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、日本大学文理学部、「社会学特殊講義 3」、2016.4～2016.9、2017.4～2017.9

非常勤講師、静岡県立大学国際関係学部、「人間科学基礎論 A・B」、2017.9、2018.2

(2) 学会

国内、日本生活学会、編集委員、2014～

国内、日本生活学会、理事、2016～

国内、日本社会学会、学術情報支援委員、2015～